

令和5（2023）年度

運営に関する計画・自己評価

令和5（2023）年4月

大阪市立大宮小学校

大阪市立大宮小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題**(1) 学校の概要・地域・保護者の状況**

本校は、これまでの教育振興基本計画に示されている「知・徳・体」に沿って、学力及び体力の向上、思いやりや志の醸成、健康な心身の育成を図ってきた。

平成 29 年度から令和 3 年度までの 5 年間は、国語科を研究教科として取り組み、基礎基本の学力定着、及び自己表現力・論理的思考力を高める教育活動を行ってきた。さらに、令和 3 年度は、特別支援教育や日本語指導、多文化共生教育など多様な子どもに関する指導法についても研究を進め、全学年でダイバーシティ&インクルージョンを目指した教育活動にも力を入れて取り組んできた。また、文化庁の派遣事業や、地域の方々など外部人材を活用した出前授業や伝統文化、自然との触れ合いなど、多様な体験活動を通して豊かな心を育んできた。

その結果、児童・保護者ともに本校の教育活動アンケートでは、教育活動の取り組みや成果に対する肯定的回答の割合が高くなり、学校選択で、本校に入学する数も年々増加傾向にある。保護者は、概ね学校に協力的で、学校への信頼・期待も大きい。地域は、PTA と連携して子ども向けの行事を多く実施してきたが、コロナ禍でここ 2 年間は、ほとんど実施できていない。

本校の強み・・・子どもは素直で、言われたことは比較的きちんとできる。保護者、地域は協力的で、外部講師も依頼すれば引き受けてくれる。

弱み・・・自分で考えて行動したり、新しいことに挑戦しようとしたりする意欲が薄い子どもが多い。受け身の姿勢が見られる。

(2) 3 つの「最重要目標」から見た現状と課題**①「安全・安心な教育の推進」に関して**

ア. 令和 4 年度に本校が認知した“いじめ”の件数は **1 学期 77 件、2 学期 71 件、3 学期 37 件**。それぞれ担任が、丁寧に聞き取りを行い、全件とも解消しているが継続支援・観察を行っている。

本校では、いじめに関する校内研修や児童理解研修会を実施するとともに、日常の言動観察、日記、いじめアンケート、教職員間の情報交換を密にとるなどして、サインを見逃さない取り組みを押し進めている。特に、いじめの未然防止に重点をおき、いじめを許さない意識、傍観者をつくらない、認め合う仲間づくりなど心の教育を推し進めてきた。

学年および生活指導部で、児童同士のトラブルなど早期発見に組織的に取り組み、令和 2 年度以前の“いじめ”関連の問題は全件解消している。しかし、いじめは「どこでも、誰でも、いつでも」おこるものであり、一層の指導・支援の積み重ねを図る必要がある。

・令和 4 年度、学力経年調査の質問紙調査（3～6 年）や本校児童アンケートで「いじめは絶対許されない」と回答した児童はそれぞれ **93.2%、89%**。

イ. 「学校のきまり・規則を守っている」児童は**約 89%**である。

児童の好ましくない言動には毅然とした態度で指導することを全教職員で共通理解するとともに、学習規律の確立に組織的に取り組んでいる。学級の荒れはない。ルールを守ると意識がより身に付けられるように全体指導、学級指導を徹底する。

・学力経年調査の質問紙調査（3～6 年）、本校児童アンケートで「学校のきまりを守っている」と肯定的に回答した児童はそれぞれ **87.8%、90%**

ウ. 児童間暴力、対教師暴力は、過去 6 年間で 0 件である。

対教師暴力や対人暴力、器物破損はない。暴力行為を伴う“けんか”など児童間暴力は学校管理下で 0 件、管理下以外で 3 件、計 3 件でいずれも怪我はない。語彙力の乏しさから間違った言葉の使い方をすることでトラブルが生じるなど、人間関係の未熟さ、自己表現の拙さ等があり、コミュニケーション能力を核にした人間関係力を向上させることは、今後も必要である。

エ. 令和 4 年度の長期欠席児童（30 日以上）は **15 名**である。

4 年度の長期欠席児童 **15 名**の内 15 名が不登校である。（家庭の方針で学校には通わさない

で、自宅学習を選択している数は、**3** 件である。) 不登校対応に当たっては、学校教育の意義・役割や働きかけや関わりを持つことの重要性などをふまえ、組織的な対応に努めてきた。さらに、心の居場所づくり、安心して通うことができるいじめや暴力を許さない学級づくり、体験活動など学ぶ意欲の充実、きめ細かい教科指導など、不登校とならないための魅力ある学校づくりと、教職員の資質向上や教員を支援する学校全体の指導体制の充実など、不登校児童生徒に対するきめ細かく柔軟な対応に努めている。特にコロナ禍で、登校に不安を感じる児童には、オンラインや個別のプリント学習などの対応を講じている。

②「未来を切り拓く学力・体力の向上」に関して

ア.「学力」に関して、平成 29 年度の全国学力・学習状況調査では、国語・算数ともに全国平均を 4～6 ポイント下回っていたが、平成 30 年度以降は、国語・算数・理科(平成 30 年度・令和 4 年度)全てにおいて **3～11** ポイント全国平均を上回っている。

▼全国学力・学習状況調査の結果

		国語	算数	理科	合計
R4 年度	本 校	7 1	6 5	71	143
	大阪市	64	62	60	186
	全 国	65. 6	63. 2	63. 3	192. 1
R3 年度	本 校	76	78		154
	大阪市	63	69		132
	全 国	64. 7	70. 2		134. 9
R1 年度	本 校	69	70		139
	大阪市	58	65		123
	全 国	63. 8	60. 6		130. 4

※ H30 年度は、国算とも A(基本) B(活用) 問題 R2 年度は、中止 理科は 3 年ごとに実施

▼令和 4 年度 小学校学力経年調査の結果

国語	3 年	4 年	5 年	6 年	社会	3 年	4 年	5 年	6 年
R3	102. 4	106. 9	104. 8	103. 7	R3	102. 5	103. 7	101. 1	104. 0
R4	105. 3	103. 9	104. 3	104. 3	R4	104. 5	100. 4	101. 1	102. 8
算数	3 年	4 年	5 年	6 年	理科	3 年	4 年	5 年	6 年
R3	102. 5	106. 3	104. 5	104. 9	R3	102. 4	106. 1	107. 5	103. 9
R4	106. 0	103. 5	103. 9	103. 6	R4	103. 8	103. 2	105. 5	104. 4
英語	3 年	4 年	5 年	6 年					
R3			104. 1	103. 1					
R4			100. 9	103. 2					

※英語は、5、6 年生のみ実施

【標準化得点】市平均の正答率を 100 としたときの換算値で、100 より数値が上であれば想定的に良好であることを、下であれば課題があることを示す。令和 4 年度の小学校学力経年調査では、全教科でいずれの学年も本市平均を上回っている。各学年には、「市平均に対する総合正答率の割合が 7 割以下の児童が **3～10%** いる。「できない子はできるように、できる子はもっとで

きるように」を基本方針に、学習内容が定着していない児童には基礎的・基本的内容がしっかりと身に付くように習熟度別授業をはじめ個別などの指導の工夫をするとともに、伸びる児童は一層伸ばすようにする。特に、高学年の学習指導は、教科担当制を実施するなどし、さらなる授業改善を図る必要がある。

イ、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の肯定的回答は80%である。(R4 経年調査より)

▼学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている (%)

3 年	4 年	5 年	6 年	全体(平均)
80.0 (40.0+40.0)	85.3 (32.4+52.9)	75.3 (33.8+41.5)	82.2 (38.7+43.5)	73.2 (36.2+37)

※ (内は、「そう思う」「どちらかとそう思う」を合わせたもの)

29～R4 年度までは「繰り返し行う学習形態に取り組む」ことで基礎・基本の力を一定レベルまで上げることができてきた。今後は、思考力・判断力・表現力のさらなる育成をめざし、活用力もつけて、協働学習や主体的・対話的で深い学びを実現することを目指すとともに、その視点からの学習過程、及び授業の改善を図る必要がある。

また、質問紙調査から全学年とも「読書が好き」(肯定的回答)は、59.8%、「学校の授業以外に読書を全くしない・または30分以内」は、41.9%で読書への関心・意欲を高め、読書量を増やす必要がある。

ウ、体力に関しては、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の8項目合計点では、令和3年度は、男女とも全国平均より4～5ポイント下回った。令和4年度は、男女ともに6種目と体力合計点において大阪市平均を上回った。

男子では特に、反復横跳び、立ち幅跳びで、全国との差が大きい。女子では、立ち幅跳び、反復横跳び、握力等に課題がみられる。体育学習の他に休み時間での運動遊びや、体育的行事の充実を図る。取り組みとして水泳特別練習、綱引き大会、なわとび週間などを実施し、体力・運動能力を伸ばす指導を工夫するとともに、特に課題である種目については年度ごとに重点種目を決めて取り組む必要がある。また、主体的に運動する習慣が身に付いていないことも課題である。

▼令和3年度全国体力・運動能力運動習慣調査結果より (平均値)

<5年男子>

	握力 (kg)	上体起 こし (回)	長座体前 屈 (cm)	反復横跳 び (点)	20mシャ トルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳 び (cm)	ソフトボ ール投げ (m)	体力合計点 (点)
本校	15.27	18.76	33.81	39.46	52.37	9.38	146.5	22.22	52.91
大阪市	16.11	18.44	33.14	38.26	42.95	9.59	148.22	20.07	50.83
全国	16.21	18.86	33.97	40.36	45.92	9.53	150.83	20.31	52.28

<5年女子>

本校	12.97	17.97	39.80	36.82	44.50	9.50	138.11	13.1	53.79
大阪市	16.01	17.55	38.00	36.50	34.13	9.76	140.76	12.77	52.65
全国	16.1	17.97	38.18	38.66	36.97	9.70	144.55	13.17	54.31

・全国体力・運動能力調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好き

ですか」に対して、肯定的に回答した児童の割合は、男子が 97.3%、女子が 93.1%であり、男女ともに大阪市平均を上回った。

③「学びを支える教育環境の充実」に関して

- ア. ICTの活用については、導入時から教員研修を実施し、オンライン対応を早くから実施できた。一人一台PCの1学級当たりの活用状況は、令和元年度は4.8回であった。2、3年度は、臨時休業、端末移設等により活用回数は減っている。
- イ. 令和4年度の時間外累計平均労働時間は **29 時間 37 分** (12月現在)であり、1か月45時間を超えない教員は、**45.16%**、**1か月の時間外が45時間を超える月を1年間に6月までとする目標に対しては、74.19%**の達成率であった。

中期目標達成に向けた年度目標

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

＜全市共通＞

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を **80%以上**にする。(令和4年度、学力経年調査の質問紙調査(3～6年)において93.2%)
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

＜学校＞

- 令和7年度末の本校アンケート調査で、以下の項目について、全学年とも、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を以下の通りとする。
 - ・「いじめはどんなことがあっても許されないと思う」…**100%** (令和4年度89%)
 - ・「学校のきまり・規則を守っている」…**90%** (令和4年度90%)
 - ・「自分にはよいところがある」…**90%** (令和4年度86%)
 - ・「人の役に立つ人間になりたい」…**90%** (令和4年度97%)
- 令和7年度末の本校アンケート調査で、「学校は生命や人権の尊さについての教育活動をよく行っている」という項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合を **90%**にする。(令和4年度97%)
- 令和7年度末の本校アンケート調査で、「子どもたちは、学校や家庭・地域などで、地震や火災などの非常災害が起こったとき、どう行動したらよいかわかるようになっている」という項目について、「思う(だいたい思う)」と回答する保護者の割合を **80%以上**にする。(R4年度91%)
- 令和7年度末の本校アンケート調査で、「学校は、多様な体験活動を実施している」という項目について、「思う(だいたい思う)」と回答する保護者の割合を、90%以上にする。(令和4年度95%)

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

＜共通＞

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を **40%以上**にする。(令和4年度36.2%)
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。標準偏差値を小さくする。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を **75%以上**にする。(令和4年度73.6%)

- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を **85%以上**にする。（令和4年度 **84.3%**）
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を **68%以上**にする。（令和4年度全国体力・運動能力調査において、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合は **65.5%**）

＜学校＞

- 令和7年度までの全国学力・学習状況調査において、国語、算数とも、全国平均より平均正答率を高くする。
※理科がある年度は理科も含める。
- 令和5年度以降、大阪市経年学力調査（国語・算数・理科・社会）について、平均正答率を市平均以上にするるとともに昨年度の標準化得点と同等もしくは高くする。
- 令和7年度末の本校アンケート調査や経年調査で、「学校の授業時間以外に、ふだん1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」の質問に「全くしない・30分より少ない」と答える児童の割合を10ポイント減少させる。（令和4年度は経年調査 **28%**）
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査で、すべての種目の結果を全国平均の水準以上にする。
- 令和7年度末の本校アンケート調査で、『早寝、早起き』を行い、規則正しい生活を送っている」の項目について「当てはまる（だいたい当てはまる）」と回答する児童の割合を、**80%以上**にする。（令和4年度は **74%**）
- 令和7年度末の本校アンケート調査で、「小・幼・保の連携で、互いの子どもの様子や教育活動について理解が深まった」の項目について、「思う（だいたい思う）」と回答する関係幼稚園・保育所及び本校の教職員の割合を **85%以上**にする。
- 令和7年度末の本校アンケート調査で、英語（外国語）、プログラミング教育などに関して、それぞれ「楽しい」「わかりやすい」「もっとしたい」の項目について、「当てはまる（だいたい当てはまる）」と回答する児童の割合を、それぞれ **85%以上**にする。
- 令和7年度末の本校アンケート調査で、「読書が好き」で「1か月に3冊以上本を読む」と回答する全校児童の割合を **80%**にする。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

- 2～6年で、一日1回は一人一台端末を開き、「心の天気」や個に応じた学習に活用する。
- 週に1回は、「ゆとりの日」を設定し、17時半には全員が退庁する。また、1か月の時間外勤務を45時間以内の教職員の割合を、**80%**にする。
- 4年生以上で教科担当制を最低学期に1回設定し、教材研究を深める時間を確保する。
- 地域連携の取組や多様な体験学習により、児童の好奇心・探求心を育み、魅力ある学校づくりを推進する。
- 学びに関連する様々な学習履歴や行動履歴などの教育ビッグデータを収集し、毎学期ごとに見直し、活用していく。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

全市共通目標

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を **80%**以上にする。（学力経年調査の質問紙調査（3～6年）において **令和4年度 93.2%**）
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校の年度目標

- 令和5年度末の本校アンケート調査で、いじめ、規則の遵守や自己肯定感、社会貢献に関する次のそれぞれの項目について、全学年とも、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を以下のとおりにする。
 - ・「いじめはどんなことがあっても許されないと思う」…100%（令和4年度 89%）
 - ・「学校のきまり・規則を守っている」…90%（令和4年度 90%）
 - ・「自分にはよいところがある」…90%（令和4年度 86%）
 - ・「人の役に立つ人間になりたい」…90%（令和4年度 97%）
- 令和5年度末の本校アンケート調査で、「学校は生命や人権の尊さについての教育活動をよく行っている」という項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合を **90%**にする。（**令和4年度 97%**）
- 令和5年度末の本校アンケート調査で、「こどもたちは、学校や家庭・地域などで、地震や火災などの非常災害が起こったとき、どう行動したらよいかわかるようになっている」の項目について、「思う（だいたい思う）」と回答する保護者の割合を **80%**以上にする。（**R4年度 91%**）
- 令和5年度末の本校アンケート調査で、「学校は、多様な体験活動を実施している」の項目について、「思う（だいたい思う）」と回答する保護者の割合を、90%以上にする。（**令和4年度 95%**）

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を **40%**以上にする。（**令和4年度 36.2%**）
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。標準偏差値を小さくする。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。（令和4年度 73.6%）
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。（**令和4年度 84.3%**）
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好き

ですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を **68%以上**にする。(令和4年度全国体力・運動能力調査において、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合は、**65.5%**)

学校の年度目標

- 令和5年度末の大阪市学力経年調査及び本校アンケート調査で学校の授業時間以外に、ふだん1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」の質問に「全くしない・30分より少ない」と答える児童の割合を **5ポイント**減少させる。(令和4年度は経年調査 **28%**)
- 令和5年度末の本校アンケート調査で、『早寝、早起き』を行い、規則正しい生活を送っている」の項目について「当てはまる(だいたい当てはまる)」と回答する児童の割合を、**75%**以上にする。(令和4年度は **74%**)
- 令和5年度末の本校アンケート調査で、「小・幼・保の連携で、互いの子どもの様子や教育活動について理解が深まった」の項目について、「思う(だいたい思う)」と回答する関係幼稚園・保育所及び本校の教職員の割合を **80%**以上にする。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標

- 週に1回は、「ゆとりの日」を設定し、17時半には全員が退庁する。また、時間外勤務を45時間以内の教職員の割合を、**80%**にする。
- 4年生以上で教科担当制を **最低学期に1回設定**し、教材研究を深める時間を確保する。
- 地域連携の取組や多様な体験学習により、児童の好奇心・探求心を育み、魅力ある学校づくりを推進する。

学校の年度目標

- 学びに関連する様々な学習履歴や行動履歴などの教育ビッグデータを収集し、毎学期ごとに見直し、活用していく。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立大宮小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成 状況
【最重要項目 1 安全・安心な教育の推進】 全市共通目標 ○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 80%以上にする。(全国学力・学習状況調査において令和 4 年度 93.2%) ○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 学校の年度目標 ○令和 5 年度末の本校アンケート調査で、いじめ、規則の遵守や自己肯定感、社会貢献に関する次のそれぞれの項目について、全学年とも、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を以下のとおりにする。 ・「いじめはどんなことがあっても許されないと思う」…100%（令和 4 年度 89%） ・「学校のきまり・規則を守っている」…85%（令和 4 年度 90%） ・「自分にはよいところがある」…85%（令和 4 年度 86%） ・「人の役に立つ人間になりたい」…85%（令和 4 年度 97%） ○令和 5 年度末の本校アンケート調査で、「学校は生命や人権の尊さについての教育活動をよく行っている」という項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合を 90%以上にする。（令和 4 年度 94%） ○令和 5 年度末の本校アンケート調査で、「学校は、地震や火災などの非常災害が起こったとき、どう行動したらよいかわかるような教育を行っている」という項目について、「思う（だいたい思う）」と回答する保護者の割合を 70%以上にする。（令和 4 年度 75%） ○年度末の本校アンケート調査で、「学校は、多様な体験活動を実施している」の項目について、「思う（だいたい思う）」と回答する保護者の割合を、85%以上にする。（令和 4 年度 92%）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容① 【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 ・月 2 回の生活指導連絡会（職員会議・生活指導部会）の中で情報共有を図り、いじめや問題行動の未然防止、早期発見・早期対応をする。「大宮小いじめ対策基本方針」に則り、全学級・全学年で、好ましい人間関係や信頼関係のある集団を育成するための活動を意図的、計画的、継続的に行う。問題等が生じた際には、教職員全体で共通理解に努めるとともに、解消に向けて、組織的に取り組む。また、不登校児童においては、日ごろから家庭との連携を密にし、オンラインを活用した学習やプリント学習を通してつながりを持ち続けることができるようにする。	

指標・いじめ調査を年３回実施し、その結果「いじめられている」、「いじめた」と答えた児童等には聞き取りと対応を行う。	
取組内容② 【基本的な方向１ 安全・安心な教育環境の実現】 ・「安全安心ルール」とともに、大宮小学校のきまりについて教職員で共通理解し、児童の実態に基づいて、生活目標を設定し、学級・学校全体で指導する。日常的な指導と強調週間を設けて指導する。 ・生活目標は、月単位・隔週単位で設定する。<u>また、児童の実態に基づいて、生活目標の設定、継続、変更等を行う。</u>	
指標・「廊下・階段安全歩行に関する強調週間」を年２回設定し、日常的・継続的に各学級で注意喚起を行う。また、看護当番を中心に<u>教職員</u>で休み時間の見守りを行い、運動場のきまりについても意識できるようにする。児童アンケート「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（だいたい当てはまる）」と回答する児童の割合について、85%以上を維持する（令和４年度は90%）	
取組内容③ 【基本的な方向１ 安全・安心な教育環境の実現】 ・防犯・防災教育の年間計画を見直し、非常時に備えた訓練を実施し、PDCAに沿って改善する。また、保護者と教職員が連携して児童の安全を守る取り組みを考える。 ・理科や社会科・道徳など各教科、特別活動・総合的な学習の時間で、災害に関する映像の視聴や体験を重視して、防災教育を実施・評価・改善する。	
指標・各学年、年１回以上防災に関する授業を行うと共に、保護者・地域と連携した合同防災訓練や引き渡し訓練を実施する。また、防災に関する取組を行った際には、その都度学年だよりや学校ホームページ等で取組について掲載し、保護者・地域への周知を図る。	
取組内容④ 【基本的な方向２ 豊かな心の育成】 ・道徳の時間を要として、教育活動全体を通して自己肯定感を高めるような道徳教育に取り組む。 ・人権が尊重される学習活動づくり、インクルーシブ教育、多文化共生教育について教職員が理解を深化する中で、多様な価値観や文化を背景にもつ子どもを含め、子ども同士が互いの違いを認め合い、高め合える集団づくりを実践する。 ・企業の出前授業やオンライン授業、外部講師の招聘など、子どもの内面に根ざした道徳性の育成に努めるとともに、職業観、本校への誇り、地元への愛着等を育てる。	
指標・各学年で豊かな心の育成につながる実践や体験活動をそれぞれ年１回以上行う。 ・児童アンケート「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、「当てはまる（だいたい当てはまる）」と回答する児童の割合について、85%以上を維持する。	

年 度 目 標	達成 状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標 ○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40%以上にする。(令和 4 年度 36.2%) ○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。標準偏差値を小さくする。 ○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。(令和 4 年度 73.6%) ○小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。(令和 4 年度 84.3%) ○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 68%以上にする。(令和 4 年度全国体力・運動能力調査において、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合は 65.5%) 学校の年度目標 ○令和 5 年度末の大阪市学力経年調査及び本校アンケート調査で学校の授業時間以外に、ふだん 1 日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」の質問に「全くしない・30 分より少ない」と答える児童の割合を前年度よりも減少させる。(令和 4 年度は経年調査 28%) ○令和 5 年度末の本校アンケート調査で、『早寝、早起き』を行い、規則正しい生活を送っている」の項目について「当てはまる(だいたい当てはまる」と回答する児童の割合を、75%以上にする。(令和 4 年度は 74%) ○令和 5 年度末の本校アンケート調査で、「小・幼・保の連携で、互いの子どもの様子や教育活動について理解が深まった」の項目について、「思う(だいたい思う)」と回答する関係幼稚園・保育所及び本校の教職員の割合を 80%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容① 【基本的な方向 3 幼児教育の推進と質の向上】 ・年 1 回以上近隣幼稚園・保育園と連携を深め、保幼小交流など、幼児と児童との相互交流、教員間の合同研修・交流の機会を設け、表現、体力、運動能力、人間関係力を中心に、互いの子どもの様子や教育活動を相互参観する。また、意見交換の場を設ける。小学校への円滑な接続ができるようにし、記録としてまとめていく。 指標・保育園(所)、幼稚園、本校教員の交流(幼児と児童、保育士・教員と教員)を年 5 回以上実施することで、本校アンケート調査(中間・年度末)の「小・幼・保の連携で、互いの子どもの様子や教育活動への理解を共有できた」という項目について肯定的回	

答をする関係幼稚園・保育所及び本校の教職員の割合を 80%以上にする。(令和元年度 93%、令和 2 年度 3 年度はとれていない)	
取組内容② 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・習熟度別授業はもとより普通の授業において、児童一人一人の能力や理解・習熟の程度に応じて、基礎・基本の定着を図る学習や発展的な学習を行い、個々の力をそれぞれ伸ばす。 ・全学年で計画的に ICT や思考ツールなどを活用して協働学習や、主体的・対話的で深い学びの成立をめざした授業実践を行う。 ・家庭学習・自主学習の定着を図るために全校児童で取り組む。また、手本となるような自主学習ノートを月 1 回玄関や教室、廊下などに掲示したりコピーしたりして「家庭学習・自主学習の手引き」として活用する。 指標・各学級において、学習理解が十分でない児童を担任・習熟度別担当等が指導する機会を週 1 回以上設ける(放課後学習サポート事業を除く)。 ・国語・算数科における単元評価テストの正答率を 75%以上にし、達成できない場合は課題別復習プリントを達成できるまで行う。 ・研修等で学んだことを生かし、教員全員が主体的、対話的で深い学びの成立をめざした授業(含む:「公開授業」)に取り組む。 ・家庭学習・自主学習の定着や取組内容を広げるため、学期に 1 回低・中・高学年部会で情報交換を行う。	
取組内容③ 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・英語教育の強化を図るため、全学年、週 2 回、15 分の「英語タイム」を設け、Dream を活用した発音の練習や聞き取りの練習をするとともに、年間 1 回以上の英語集会、校内掲示等の英語表示、歌や CD の校内放送など、日常的に英語にふれ慣れ親しむ環境を充実させる。 ・「English Day」を定め、外国人留学生(C-NET)と交流し、自分の考えや意見などを伝えることができる英語コミュニケーション能力を育成する。 指標・各学年、週に 2 回(各 15 分)英語に親しむ活動を実施する。 ・外国語活動に関する校内研修会を年間 1 回以上実施する。	
取組内容④ 【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 ・体力づくりアクションプランに基づき、体力向上の取組を計画的に進め、その結果を体育向上プロジェクトでまとめ、全教職員で共通理解し取組を改善する。外遊びや各種運動・スポーツへの勧奨、50m 走、立ち幅跳びなどについて自己目標の設定、記録会等への参加、トップアスリートの招聘などを通して、体力向上と運動への意識を高める。運動量確保のため、指導の充実と場所の確保、運動器具の整備充実を図ると共に、各学年で学級裁量等の時間を利用して運動をする。 ・跳ぶ、投げる、握力、調整力、筋力などを伸ばすため、運動器具等を整備するとともに、体力・運動への関心を高める掲示やコーナーを設ける。 指標・体育科の年間指導計画に位置付け、1 年に 2 回以上記録をとる。 ・外遊びや体を動かすことの推奨を図るために、年 2 回以上の企画(「大宮スポーツ交流会」「なわとび週間」等)を行う。 ・自身の記録に関心を抱かせる工夫や、いつでも計測できるよう環境を整える。(立ち幅跳び計測用目盛り、砂場の開放など)	
取組内容⑤ 【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 ・健康な生活習慣の確立を図るため、生活アンケートによる児童の健康に関する実態把握、	

毎月の欠席調査やけがの把握等から課題を分析し、対策を共通理解し共通実践する。 ・健康委員会の児童による定期的な呼びかけと担任による毎月の健康チェック（ハンカチ、ティッシュ、爪）などで意識づけをして、健康に過ごす基本的な生活習慣の定着を図る。 ・「早寝 早起き 朝ごはん」などの望ましい生活習慣や病気の予防等について、キッズチャレンジ週間を実施して啓発活動を行う。睡眠やメディアの使用時間の調査などを行い、生活リズムが崩れている児童には、保護者も交えて指導・助言し、生活を改善させる。 ・子どもの発達段階に応じた健康に関する指導を推進するとともに、手洗いの励行などの日常指導を実施し、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた新しい生活様式への対応推進を図る。	
指標・学期に 1 回、キッズチャレンジのチェックカードを用いて、振り返りを行わせる機会を設ける。 ・健康な生活習慣の確立に向けた取り組みとして、学校保健委員会を年 1 回開催する。 ・メディアが与える影響について、保護者向けの研修会を年 1 回行い啓発していく。	
取組内容⑥ 【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 ・「食に関する指導の全体計画」に基づき、学年ごとに年間計画を作成し、食と健康に関する内容等を取りあげた指導を行ったり、給食委員会の児童とともに「食に関する行事」に年 2 回以上取り組んだりして、児童の食意識を高めるようにする。 ・各学級での給食指導（ICT 含む）や食育を実施することで、児童アンケート「栄養のバランスを考えて好き嫌いせず食べようとがんばっているか」で、肯定的回答 80%以上になるように、個別指導・支援も含め、継続指導を行う。（令和 3 年度は 80%） ・「しょくせいかつだより（児童向け）」「食育つうしん（保護者向け）」等を発行し児童とともに家庭にも働きかけ、保護者アンケート「食事を用意する時、黄赤緑の栄養バランスがそろうように意識しましたか」で肯定的回答 80%以上を取り、栄養バランスの大切さを意識づける。（令和 3 年度は 86%）	
指標・「しょくせいかつだより」を毎月 1 回、「食育だより」を学期に 1 回以上発行し、給食の内容などとともにホームページに掲載する。 ・各学年、食に関する指導を年 2 回以上行う。	

年度目標の達状状況や取組の進捗状況の結果と分析
【全市共通目標】について 【年度目標】について 【取組内容】について
後期への改善点

年 度 目 標	達成 状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ○ 2 ～ 6 年で、一日 1 回は一人一台端末を開き、「心の天気」や個に応じた学習に活用する。 ○ 週に 1 回は、「ゆとりの日」を設定し、1 7 時半には全員が退庁する。また、時間外勤務を 45 時間以内の教職員の割合を、80%にする。 ○ 4 年生以上で教科担当制を最低学期に 1 回設定し、教材研究を深める時間を確保する。 ○ 地域連携の取組や多様な体験学習により、児童の好奇心・探求心を育み、魅力ある学校づくりを推進する。 ○ 学びに関連する様々な学習履歴や行動履歴などの教育ビッグデータを収集し、毎学期ごとに見直し、活用していく。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容① 【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 ・ 全学年で、日常的に ICT を活用した授業を実施し、個別最適な学びと協働的な学びの視点から学習活動の充実を目指す。 ・ 一人一台端末を活用したオンライン授業を年に 1 回実施し、機器の扱いの習熟及び実践事例の蓄積に努める。 指標・ 1 人 1 台端末を活用した家庭学習を月 1 回実施する。 ・ I C Tに関する校内研修会を年 1 回実施する。	
取組内容② 【基本的な方向 7 人材確保・育成としなやかな組織づくり】 ・ 大学や OB 校長、教育センター等と連携して、校内研修・研究の実績をあげるとともに、校内授業研究を通して教員の資質向上に努める。さらに、若手教員の指導力向上を目指して組織を生かした育成に取り組む。 指標・ 校内研修（含む：「メンター研修」）を年 10 回行う。 ・ 年 1 回全員が、公開授業を行う。各学年の研究実践を学校としてまとめる。	
取組内容③ 【基本的な方向 8 生涯学習の支援】 ・ 読み聞かせをしたり、関連図書を並べたりして、読書に興味をもたせるよう努める。最低低学年は月に 3 冊、高学年は月に 1 冊以上読むように指導する。 ・ 読書習慣定着と読書量の増加を図るため、図書室の配架を工夫するとともに、図書を充実させる。 ・ 図書室及び読書活動における環境整備を行い、読み聞かせやブックトーク、ベストリーダー表彰などの取り組みを通して図書室来館者数、読書量を増加させる。 指標・ 読書タイムや「読書ノート」等の取り組みを継続し、児童一人当たり年間低学年は最低 36 冊、高学年は 12 冊以上読むようにする。 ・ 一般紙、子ども新聞等に俳句や投書などを応募して新聞を活用する。	

取組内容④ 【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 ・ 地域による学校支援の取組や学校・地域・家庭の連携による様々な取組を推進する。 ・ 学校の取組や情報に関して透明化、可視化を図ることを方針に、日々の子どもの活動を紹介したり、学校評価をはじめ各種データを公表したり、学校方針や取り組みを掲載したりする等ホームページを充実させ、本校の教育実践等を広く広報する。年間アクセス数 4 万件以上を維持する。(令和 4 年度は 73801 件) 指標・ 学校アンケート「登下校の見守り、学習活動支援、PTA 活動、学校行事など、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」の項目において、肯定的に回答する保護者の割合を 60%以上にする。 ・ホームページを週3回更新する。	
年度目標の達状状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【全市共通目標】について 【年度目標】について 【取組内容】について	
後期への改善点	